

高台移転を行った庁舎の事例

No.	市町村	施設概要	敷地面積	施設延床面積	移転先標高・海拔	移転時期	移転理由
1	高知県黒潮町	S造 3F	1524.00m ²	4,596.92m ²	海拔26m	2017年11月	津波対応。
2	高知県中土佐町	RC造 B1/5F (駐車場棟S造4F)	約15,000m ²	4,192m ² (駐車場棟94台分、3,392m ²)	海拔17m	2021年1月12日	老朽化に加え海拔3.3mの津波浸水想定区域内にあることから、久礼中学校隣の高台に移転。
3	北海道浜中町	RC造 3F	18,466m ²	4,205m ²	海拔42m	2020年11月	最大22.1mの津波到達、現庁舎は地面から4.4m浸水の予測。
4	岩手県宮古市	S造 6F	約15,590m ²	13,817.20m ² (本庁舎：8,226.01m ² 、保健センター： 1,193.96m ² 、市民交流センター：4,397.23 m ²)	標高4m	2018年10月	現在の市役所本庁舎や分庁舎は建物の耐震性が不足、分散している市役所各課を集約。
5	宮城県南三陸町	RC造 3F	8,730.1m ²	3,772.6m ²	標高71m	2017年8月	東日本大震災で被災した役場庁舎を高台移転。
6	高知県宿毛市	庁舎棟：S造・一部W造4F 倉庫棟：S造2F	6,076.09m ²	5,471.28m ² (庁舎棟：5,078.69m ² 、倉庫 棟：355.69m ² 、駐輪場：67.10m ²)	標高6m	2022年4月	大規模災害発生の際、人口流出を防ぎ地域の維持・継続を図るため、防災拠点となる市役所庁舎の高台移転を進める。
7	和歌山県串本町	PCaPC造 2F 車庫・書庫棟：2F	13,339.33m ²	約5,400m ² 車庫・書庫棟：約317m ²	海拔50m	2021年7月	現庁舎は海拔約3m地点のため南海トラフ巨大地震を想定し、北側に約1km離れたサンゴ台へ移転。
8	宮崎県日之影町	RC造 3F (車庫：S造平屋)	約6,330 m ²	庁舎本体：3,918.15m ² 車庫：176.64m ²	標高277m	2021年5月	老朽化が進み現行の耐震基準を満たさないことから、町有地の高台に移転。
9	茨城県大子町	W造 2F	30,826m ²	行政棟＋議会ホール棟：4,130m ² 倉庫棟：936m ²	標高140m	2022年6月	台風第19号(令和元年10月)の被害を受け、変更前敷地周辺の中心市街地が甚大な被害にあったため、高台に位置する「旧東京理科大学大子研修センターグラウンド」に敷地移転を決定。
10	和歌山県印南町	庁舎：RC造 3F 車庫及び書庫棟：S造 2F	8,893m ²	庁舎：2,595m ² (事務室約900m ² 、議場約 190m ² 、大会議室150m ² 、その他(機械室、 守衛室、更衣室、休憩室等)) 車庫及び書庫棟：451m ²	海拔30m	2017年2月	老朽化と近い将来起こるとされる南海トラフ巨大地震によって発生が予想される津波対策として高台に移転。
11	青森県鮭ヶ沢町	庁舎棟：2F 備蓄倉庫棟：1F 車庫棟：1F	19,114m ²	庁舎棟：1階1,863m ² 、2階1,935m ² 備蓄倉庫棟：150m ² 車庫等：148m ²	標高37m	2021年5月	老朽化に加え、昭和58年の日本海中部地震の影響により耐震性に不安があること、海岸沿いの立地に津波の心配があることなどから防災拠点としての機能を強化するため高台への移転。

※標高・海拔：東京湾の平均海面を基準面とし、平均面からの高さを標高と呼び、近隣の海面からの高さを海拔と呼ぶ。(国土地理院)